令和４年度　自己評価・学校関係者評価報告書

令和５年３月31日

学校法人織田学園
幼保連携型認定こども園
やよい幼稚園

１．本園の教育目標

元 気 な 子	体を動かして夢中で遊ぶ子
	生活習慣の身についた子
やさしい子	誰とでも仲良く遊ぶ子
	動植物をかわいがる子
	自然に目を向け美しさや驚きを感じる子
がんばる子	目標に向かって最後まで取り組む子
	良い悪いの区別が出来る子
	自分の気持ちを素直に表現できる子

２．本年度重点的に取り組む目標・計画

『豊かな体験を通して幼児の資質・能力を育む』
評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園や自分自身の保育を見る目を養い、施設の改善、保育を・教育内容の改善に主体的に取り組む。

３．評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育計画	B	今年度も例年とは違う状況の中､行事を計画検討して実践することができた。
2	保育の実践	B	子どもの健康と安全､また個々の子どもに応じた適切な援助や指導をしようと心掛け、実践することができた。
3	教師間のチーム力	A	学年やクラスに関係なく職員間での連携が取れている｡より一層の職員間の風通しを良くして世代格差がないようにしていきたい。
4	保護者との連携	A	小さな声にも耳を傾け、保護者とも連絡を取り合い、意思疎通を図り、良い雰囲気づくりを心掛けた。
5	地域との連携	B	コロナ禍で園外での活動にまだまだ気を使うことが多かった｡地域の方達や来園者にはいつも明るく挨拶等をして対応できた。
6	園内外研修の充実	B	リモートばかりではなく対面での研修に参加でき､それぞれのキャリアに合った学びができた。
7	教職員としての義務履行	A	やよい幼稚園の職員として子どもたちの良いお手本となり､恥じない行動ができた。

評価（A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった）

４．総合的な評価結果

評価	理由
B	どの学年も教育目標や重点目標に基づき、子どもたち一人一人の成長に合わせた適切な保育・教育ができた。来年度も学年や園全体で話し合いをする機会を多く設けることで保育の内容を深めていきたい。子どもたちは日々の保育活動や３大行事等を通して様々な経験をし、それぞれに大きな成長を見せてくれた。

評価（A…十分に成果があった　B…成果があった　C…少し成果があった　D…成果がなかった）

５．今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
環境構成	様々な対応を必要とする子どもに応じた適切な援助や、子どもが意欲的に遊べる環境（人的・物的環境）構成を工夫する。また、子どもたちが意欲的に楽しく遊べる時間や環境を大切にしていきたい。
食育	特に給食に関して好き嫌いの多い子や食べる量の極端に少ない子の対応に苦労することが増えてきているように感じる。保護者とも連携を取りながら工夫をし楽しく給食が食べられるよう対応していきたい。
幼小接続	主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上ですべての子供に学や生活の基盤を育むこと（幼保小の架け橋プログラム）や『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』をイメージしつつ、豊かな教育活動が展開されるように工夫をする。

６．学校関係者評価委員会の評価

本園の自己評価の内容についてご意見、ご感想をお聞かせください。